

「兵庫死亡労働災害根絶運動」

兵庫労働局長が製造事業者を

安全視察

しました。



兵庫労働局（局長 赤松俊彦）は、兵庫県内の職場で死亡災害が大幅に増加している状況を受け、令和6年8月27日から令和7年1月31日を期間とする「兵庫死亡労働災害根絶運動」を県下全域に展開することとし、働く人の誰もが安心して健康に働くことが出来る職場の実現に向けて取り組んでいます。

本運動期間中、労働災害がない職場づくりに向けた様々な啓発活動を行っていますが、今回は、地域の労働災害がない職場づくりに向けた気運の熟成を図るため、製造事業者として安全意識の向上、安全基礎知識の習得、安全行動ができる人材の育成に向けて積極的に取り組んでいる企業を安全視察させていただきました。

訪問日 令和6年10月11日(金)

訪問企業 川崎重工業株式会社 神戸工場

視察場所 安全道場

所在地 神戸市中央区東川崎町3丁目1番1号



安全文化の定着と安全のために行動できる人財の育成に向けて

安全道場研修は、「全社の安全教育に活用し、全従業員の安全教育と安全意識の向上を図ることを目的に設置しました。」とのご説明がありました。平成27年12月の開設以降、作業員、職長、管理監督者のそれぞれの職階を対象に、全社一律の教育機関として約17,000名の受講生が災害発生のメカニズムや人間特性などの基本事項を学んで、「安全の知識」を各現場に持ち帰っているそうです。



研修プログラムの概要

安全道場研修は、過去の災害を心に刻み、安全への意識を高め、安全の基礎知識を習得するためのプログラムとなっています。

では安全道場の研修プログラムについて、その一部をご紹介します。

シアター（導入）：「安全」（研修）への意識づけ

- ▶ 社長メッセージではじまる「安全への問いかけ」
「安全についての私の思いです。家族のように思いながら覚悟と愛情をもってケガをさせない職場にする。皆さんが責任感を持って、ほこりのある職場にしましょう。」
- ▶ 身近に潜んでいる災害の恐ろしさを知る（映像視聴）ことが目的



重大災害コーナー：身近に潜む重大災害の恐ろしさを実感する

- ▶ 重大災害の恐ろしさを追体験する映像からその恐ろしさを実感し、発生メカニズムや発生を知ることから教訓を得ることが目的

類似災害コーナー：繰り返される災害を低減する必要性を学ぶ

- ▶ 災害を体系的に学ぶ。発生原因や対象物の傾向を知り、災害発生低減につながる根本的な要因やその対策について考えることが目的



安全基礎知識：グループ討議により、「安全」に対する意識を高めその知見を広げる

- ▶ 災害を引き起こす根本要因の多くが人的要因（ヒューマンエラー）であるということ認識し、安全衛生管理の基本的な考え方から安全衛生活動の重要性を再認識することが目的

シアター（まとめ）：「安全」への取り組みを新たにスタートする

- ▶ 取り組みの効果
受講後は、自分や仲間の安全が、会社やその家族だけでなく、広く地域や社会の安心・安全に繋がっているということを実感する。
受講生が共に「安全」を誓い、現場での「安全」への取組を新たにスタートさせるものであると説明を受けました。



視察を終えて



「安全道場」では、社長からの「安全への問いかけ」として「兵庫死亡労働災害根絶運動」の事業者の実施事項である経営トップによる安全衛生の方針表明及び安全衛生意識の高揚が図られています。赤松局長からは、「県内の各事業場の皆様も、経営トップ自ら安全衛生意識の方針表明をして安全の危険に関する感受性が高められるような安全衛生に関する教育を実施してほしい。」とコメントされました。